

中野区教育委員会会議録

平成28年第18回定例会

平成28年7月8日

中野区教育委員会

平成28年第18回中野区教育委員会定例会

○日時

平成28年7月8日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時50分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 渡邊 仁

○出席職員

教育委員会事務局次長 横山 俊

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当） 辻本 将紀

教育委員会事務局副参事（学校再編担当） 板垣 淑子

教育委員会事務局副参事（学校教育担当） 石崎 公一

教育委員会事務局指導室長 杉山 勇

教育委員会事務局副参事（就学前教育連携担当） 小山 真実

教育委員会事務局副参事（子ども教育施設担当） 浅野 昭

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長 金子 宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当 立花 加奈子

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 小林 福太郎

○傍聴者数

9人

○議題

1 報告事項

(1) 事務局報告

- ① 合同部活動等（オリンピック・パラリンピック推進事業）の実施について（子ども教育経営担当・指導室長）
- ② 幼児教育の充実に向けた部会の設置について（子ども教育経営担当）
- ③ 平成28年度保育園と幼稚園と小学校との連絡協議会の開催報告について（就学前教育連携担当）

○議事経過

午前10時00分開会

田辺教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第18回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、小林委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

また、本日の事務局報告の2番目、「幼児教育の充実に向けた部会の設置について」の資料につきましては、区議会への報告前の資料となりますので、後ほど回収させていただきます。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

<教育長及び委員活動報告>

田辺教育長

初めに、各委員から活動報告がございましたらお願いいたします。

田中委員

今週の金曜日に、6月の頭に全国小学生歯みがき大会というのがありまして、参加しました。

歯と口の健康週間というのが6月4日から1週間あって、厚生労働省と各都道府県、都道府県の教育委員会が主催者になっているので、少し関係があるかと思って報告させていただきます。

その中で、全国小学生歯みがき大会というのは、全国の小学校5年生、希望者なのですが、9万人が学校単位で参加して、インターネットを通じて、東京でやった事業を発信して、体験したりするという、そんな大会でした。

1時間なのですが、**「歯ぐきからのサインの見分け方」**とか、**「自分の歯ぐきの観察」**、オリンピックも関係していて、**「トップアスリートから学ぶ歯と口の健康」**、歯みがきの仕方、最後にこれがおもしろかった、未来宣言シールを書いてみようということがあって、未来宣言シールというのが、1時間を通じた中で、こういう小さいシールがあって、**「何々のために 何とかをがんばりながら 今日歯と自分をみがくよ！」**というふうに書いてあって、何々のためにというのと、何々を頑張りながらというのを、生徒たちが最

後の感想を書いて、それを朝、鏡の前に張ってもらって、歯みがきをしながらということなのです。なぜそういうことを企画したかという、歯みがきは簡単な行動なのですけれども、毎日続けることが健康にとっては非常に大切で、歯みがきを続けるということでの自分の達成感であるとか、あるいは歯みがき以外の自分の健康、あるいは人生の目標に向かって努力し続けるということを読んでほしい、気がついてほしいという、そういう意図なのです。

幾つか例が出ていましたけれども、サッカーの選手になるために、毎日リフティング 100 回を頑張りながら、今日も歯と自分をみがくよと書いてくれた子がいたり、大工さんになるために、算数の授業も頑張りながら、歯をみがくという、いろいろな子どもたちがいました。毎年、企画がいろいろ変わってやっているのですが、今回、中野区で参加した学校がなかったのですけれども、次年度以降、またそういったこともあってもいいのかなと感じました。

以上です。

田辺教育長

どうもありがとうございました。

ほかにございますか。

渡邊委員

今回、大和小学校が 6 日から移動教室に行ったのですが、7 月 5 日に移動教室の前の検診に伺いました。

明日から移動教室ということで、子どもたちの雰囲気は、とても楽しそうな、期待しているような感じが見受けられて、移動教室というのも彼らにとっては、緊張する様子もあるのかなと。

数日前から食事がちゃんと食べられたか、ちゃんと眠れているか、検診といっても聴診をするわけではなくて、そういうようなことと、特に具合が悪いところはないか、便は出たか、よく休んだか。そういうようなことをチェックして、何か気になることはないか、家族のほうからの聞き合わせと健康調査票の突き合わせを行います。例えばぜんそくのあるお子さんであれば、ぜんそくの発作を起こしたときにはどうしたらいいのかということを確認しましょうとか、そのようなお話になるわけですが、ここで気付いたのは、ほとんど全員と言っていいぐらい、みんな乗り物酔いと書いてあるのです。

これが何を意味しているのか、バス酔いの薬を持っていったほうがいいよという話で書

いているのか、本当に、みんな乗り物に乗りなれなくなったのか。どうなのでしょうというような感想を今回持ちましたので、ご報告まで。

これから順次移動教室も始まって、私たちもどこか見に行きたいなどは思っております。以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。

ほかにございますか。

小林委員

今週ということではないのですが、中野区の小学校はここ数年、私が前に勤めていた目白大学と提携をして、小学校で、1週間、教職を目指す学生がボランティアのような形で学校に入って、授業以外の学校の仕事を体験するという観察実習を行っています。実は、今、私の勤務している大学でもそういった教職を目指す学生がたくさんおりまして、いろいろな地区をお願いして、学生の受け入れを進めているのですが、一様に感じることは、かつては学校はなかなか外部の人材を入れるということに対してハードルが高かったのですが、今は非常に、連携ということも含めて、いろいろな人に入っていただいて、たくさん目で子どもたちの成長に携わっていくというようなことが定着して大変いいかなと思っています。

この点に関しては、中野区の小学校に対しても、今後無理のない範囲で、どんどん人材を、ボランティアという形で受け入れていただきたいと思います。学校からすればボランティアかもしれませんが、こちらとしては実習というような、きちんとした位置付けで学校を活性化していくということですから、ギブ・アンド・テイクの関係で進めていきたいかなと思っています。

現在実施しておりましたもので、報告をさせていただきました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。

ほかにございますか。よろしゅうございますか。

<事務局報告>

田辺教育長

それでは、事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「合同部活動等（オリンピック・パラリンピック推進事業）の実施について」の報告をお願いします。

副参事（子ども教育経営担当）

それでは、「合同部活動等（オリンピック・パラリンピック推進事業）の実施について」、資料に基づきご報告申し上げます。

まず、本事業の目的でございますけれども、オリンピック等のトップアスリートによる実技指導によりまして、生徒の体力及びスポーツへの関心を高めるとともに、全国大会等で活躍できる未来のアスリートを中野区から輩出できるようにしていきたいというものでございます。そのきっかけづくりを行うものでございます。

事業の内容でございますが、まず1点目は、合同部活動の実施でございます。本年度につきましては、陸上競技部及び卓球部を対象といたしまして、合同部活動を行う予定でございます。この実施に当たりましては、オリンピック等のトップアスリートを派遣いたしまして、実技指導を行っていただく考えでございます。

まず、中学校の陸上競技部への実技指導でございますけれども、本年10月から12月にかけて3回ほど予定するものでございます。

また、卓球部への実技指導でございますが、同じく10月から来年2月までの3回ということで、現在調整中でございます。

2の(2)でございますが、中野区中学校総合体育大会連合陸上大会におきましても、トップアスリートによりましてデモンストレーション等を行っていただくようなことも考えているものでございます。

今後の予定ということで3でございますが、これにつきましては、こういったトップアスリートを派遣していただける会社と契約をいたしまして、まず予定してございます陸上大会につきましては9月27日、またそのほかの合同部活動につきましては10月から2月にかけて実施をする内容と考えてございます。

報告につきましては以上でございます。

田辺教育長

各委員から質問等、ご発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

オリンピック等のトップアスリートということなのですが、本当にオリンピックに指導に来ていただくことは可能なのでしょうか。

副参事（子ども教育経営担当）

現在見積もり等させていただいているのですけれども、オリンピック経験者を派遣していただける会社がございます、そういったところと現在調整をしております。

実際に、オリンピック経験の元選手の方を想定しているものでございます。

田中委員

みんなが知っているようなアスリートだと生徒たちもぐっとやる気が出るのではないかと、なるべくそういうようなことができるようにお願いしたいと思います。

田辺教育長

ほかにございますか。

小林委員

今の、オリンピックを活用して実技指導するという、合同部活動ということなのですが、これは回数とか、時期的なものはどういうことを想定されているのでしょうか。

副参事（子ども教育経営担当）

卓球につきましては、室内競技ということもございますので現在、具体的なスケジュールにつきましては調整中なのですけれども、秋から冬にかけて、部員の方にご参集いただいて、それぞれの場所において、3回実施することを想定しているものでございますけれども、最初は基礎的な内容、その次にはそれを発展させたもの、3回目には仕上げというようなことで考えているものでございます。

小林委員

もちろんこれはとてもいい試みなので、ぜひ推進していただきたいと思うのですが、一つは、合同部活動というのは、今回オリンピック・パラリンピックの推進事業として行うわけですが、実は中学校の部活動を、適正に子どもたちの立場に立って、より良いものにしていく場合、今、子どもの数が少なくなっているとか、あとは施設面、指導者面とか、いろいろ課題があって、合同部活動というのは現実にはなかなか軌道に乗らないというのが実態としてあると思います。

こういう合同部活動、学校の立地条件というか、距離的なもの、安全性とかいろいろあるとは思いますが、こういう機会に今後の部活動のあり方を考えていく上で、合同部活動を、どのようにやれば充実した運営ができるのか。こういうものも模索していくのがいいのかなと、思いました。

それからもう一つ、これについて言えることは、オリンピックの実技指導ということな

のですが、前にもお話をしたかと思うのですけれども、オリンピックというのは、様々なものを乗り越えて、厳しい状況の中、勝ち取って、一つのキャリアを積んできているわけですので、オリンピックから実技を学ぶだけではなく、人間性を学ぶというのでしょうか。言ってみれば、実技指導とともに、実際に運動する子どもだけではなくて、全ての子どもたちに対して、いわゆる心の教育の側面から、オリンピックを活用するというのは非常に有効だと思います。

私の本務校でもオリンピックが何人かおられますけれども、やはり一様に、非常に深みのあるお話をする方が多いです。いろいろなところで歓迎をしているというのでしょうか。ですからぜひ、今後、オリンピック・パラリンピックの推進事業、実技面だけではなくて、そういう人間の生き方とのかかわりを持たせていくような事業展開も少し視野に入れてみてはいかがでしょうかと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。

渡邊委員

合同部活動（オリンピック・パラリンピック推進事業）の一環として、トップアスリート、オリンピックによる実技指導ということで、非常に大賛成です。

大賛成なのですが、11校の中学校があつて、各学校で体育会系の部活動というのは、実際どれくらいあるのか。その部活動の生徒たちを合同で集めるとなると、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場を借りなくてはいけない状況の中で、こういったオリンピックの人たちを呼んで、場所的な確保や、実現が可能なのか。10月から12月、1カ月に1回ずつ行うということですよ。そのあたりというのは大丈夫かなという心配があります。

なぜそういうことを聞くかという、ぜひやってもらいたいからこそ大丈夫かなと。例えば、合同部活動を卓球に限定しています。私としては、一部の、短距離だけの子どもたちだけしか参加できないのか、それとも中学校全部の運動系の部活をやっている人たち全部に還元できるのか。そのあたりも少し明確にされたほうがいいのか。卓球だけが明確ですよ。なぜ卓球なのという疑問が出てしまうのですけれども。そのあたり説明していただけますか。

指導室長

まず、各校における運動部の数ですが、学校規模にもよりますけれども、大体5部か6部程が標準的かなと考えています。どこの学校でも設置しているのがバスケット、サッカー、野球。それ以外にソフトテニス、バドミントン、バレーボール、それから卓球ですね。

まず、中学校の陸上ですが、陸上部は設置校が少なく、平成28年度は2校になります。そういう意味では活動の支援という点で、トップアスリートの強い啓発といいますか、実技指導をすることで進めたいということと、陸上の大会にかかわる子どもたちは比較的いろいろな部にまたがっておりますので、このときには陸上部だけでも、陸上に興味のある子どもたちの参加も広く考えていきたいと考えているところです。

それから卓球を今回取り上げた事情ですが、実は卓球については、外部指導員や専門教員が指導している学校もあるのですが、部員数に対して、専門的な指導者の確保がなかなか難しい部活でございます。そういう意味で、部員数自体は非常に多く、昨年度の実績ですと3年生まで入れると200名ぐらいおります。3年生を抜かして150名ぐらい。実際、100名から150名ぐらいが多分対象になるかと思うのですが、その子たちに対して、専門的な指導の一環も含めて実施してまいりたいと考えています。

場所ですけれども、陸上部については、例えば緑野中学校の校庭ですとか、一定、広い校庭などを活用すれば可能なのではないかと認識しています。

卓球については、一定の広さが必要になろうかと思っておりますので、現在活動場所について、学校も含めて近隣機関で適切な部分がないか、調整をしているという段階でございます。

田辺教育長

よろしいですか。

渡邊委員

少し安心しました。

ただ、先ほど小林委員が言われたように、トップアスリートと接することは、この3回でテクニックを学び取ろうというのは本来、難しく、トップアスリートに触れて、一緒にやるということがモチベーションをものすごく上げることになるということと、多少違う部であってもトップアスリートの心構えとか、マインドといった部分をお話しする時間を確実に取っていただきたいと思っております。そうしたら、どんな生徒も参加できるのではないかなと、そんな気もします。確かに実技というテクニックの問題もあるのですけれども、走る前の準備体操がどれだけ大切かとか。そういうことであれば、どの部活に入っても興味のある方は全部参加できますので、そういうような機会もぜひ、検討してい

ただきたいなと思います。

田辺教育長

先ほど小林委員からもお話がありましたように、合同部活動については、一般の部活動で日常的にもそうしたことができないかというような課題があるというお話もありました。昨今、マスコミなどでも、教員の負担感のことから部活動に対して多くの議論があるわけで、そういう実態も踏まえながら、一方で、先ほど指導室長から言いましたけれども、野球やサッカーはもうほとんどの学校でやっているのですけれども、本当に部員の数が少なく、実際合同でやらざるを得ないとか、部活の中で練習試合がままならないような状況もありますので、今後は少し実態把握を教育委員会としてしながら、またこの場で議論させていただければと思っています。よろしくお願いします。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、続いて事務局報告の2番目、「幼児教育の充実に向けた部会の設置」についての報告をお願いします。

副参事（子ども教育経営担当）

それでは、幼児教育の充実に向けた部会の設置につきまして、資料に基づきご報告申し上げます。

今後の幼児教育のあり方などにつきまして、専門的に整理・検討するため、中野区子ども・子育て会議に部会を設置してまいりたいと考えてございます。

目的でございますが、今般「新しい中野をつくる10か年計画」を策定いたしました。今後様々な取組を行う中で、就学前教育、特別支援教育の充実あるいは区の幼児教育のあり方について、専門的に整理・検討いたしまして、子ども・子育て支援事業計画の改訂にも反映させていきたいと考えているものでございます。

検討のテーマでございますが、大きくは3点ということでございます。

私立幼稚園も含めました中野区の幼児教育のあり方、保幼小接続の課題に対応する就学前教育の向上及び連携のあり方、就学前の特別支援教育の充実についてということで考えてございます。

今後の予定でございますが、8月に子ども・子育て会議におきまして部会の設置をしてまいりたいと考えてございます。以降、部会を3、4回開きまして、年明け1月には考え方を取りまとめ、3月には教育委員会並びに議会へ報告してまいりたいと考えてございます。

なお、子ども・子育て会議でございますが、裏面に記載のと通りの設置の主旨ということでございます。当区におきましては、平成 25 年に子ども・子育て支援法を踏まえ、設置をしているところでございます。

主な調査審議事項は 2 に記載のとおりでございます。これまでも子ども・子育て支援事業計画の策定など、様々な子ども・子育て施策についてご意見等を賜っているところでございます。

報告につきましては以上でございます。

田辺教育長

付け加えますと、現在の子ども・子育て会議に部会を設置するわけですがけれども、そこには区内の幼稚園関係者でありますとか、それから保幼小連携ということでは小学校の関係者など、このテーマに沿った新しい臨時委員という形になるのでしょうか、新しい方をお願いして、検討していただきたいと思っています。

この件につきまして、各委員からご質問等の発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

すごく大事な部会になると思うので、設置は大変いいと思うのです。過去にもこういった幼児教育に向けての部会というのはあったのですか。

副参事（子ども教育経営担当）

子ども・子育て会議自体は平成 25 年につくったものでございます。大きなところでは子ども・子育て支援事業計画というものを各自治体で作るということは法の努力義務ということになった。また、子ども・子育て支援法施行を踏まえ、今後の様々な施策においてご意見を賜るということを目的にした会議体ということでございます。

その中で、様々、計画作りに当たりましては、就学前の教育、保育というのでしょうか。そういった充実につきましてはご意見をいただいたところでございますが、保育料に関する部会について審議したということはございましたけれども、幼児教育に特化をして部会を設けるのは今回が初めてということでございます。

田中委員

今回、幼児教育に特化した部会を新たに設けるというのは、背景に何か、中野区の今の子どもたちの課題とか、そういった背景が特別に今回あったのでしょうか。

副参事（子ども教育経営担当）

今般、「新しい中野をつくる 10 か年計画」におきましても、今後の幼児教育につきまし

ては、例えば認定こども園の推進でありますとか、そういったさまざまな施策を打ち出しているところがございます。

また、特別支援教育の充実につきましても、考え方として打ち出しておりまして、今後こういった部分につきまして、就学前の幼児施策、これにつきまして、計画を推進する上でさらに詳細な考え方につきまして、方向性を明らかにする必要があると考えているところでございます。

田中委員

よくわかります。テーマがどうしても幼児教育というと幼稚園がイメージされてしまうわけですが、今、保育園でも幼児教育にすごく取り組んでいますし、家庭での幼児教育という側面もあると思うので、幅広い視点で検討いただけるようお願いしたいと思います。

田辺教育長

ありがとうございます。

ほかにございますか。

小林委員

先ほど教育長も言われていましたが、委員の構成の中には臨時委員として小学校の関係者も状況に応じてということなのですが、検討テーマの中での2番目に就学前教育の向上と連携のあり方とあります。子どもはどんどん成長していくわけですから、そういう意味では小学校、場合によっては中学校、そういった幅広い立場の者が委員となって、子どもたちの成長をしっかりと見て、本会の主旨を貫いていくことが大事だと思います。臨時委員という形でもいいと思うのですが、ぜひ継続的に、幼児教育だから保育園と幼稚園とだけではなくて、もう少し幅広い、いろいろな立場の方を常に入れて、全体で見ていくということが必要だと思いますので、ぜひそういった運営を心がけて、進めていただければありがたいなと思っています。

以上です。

田辺教育長

わかりました。ほかにございますか。

渡邊委員

幼児教育の充実に向けた部会の設置ということで、幼児教育の充実という言葉は非常に重要だろうと感じております。

前回の教育委員会のときも発表させていただいたように、今、保幼小連携ということで、いろいろと取組が行われています。小林委員が常におっしゃられるように、連続的な教育、小中連携、保幼小の連携、これはもう必ずやらなければならないからこそこういう形になっているのだろうということで、部会の設置というのは非常にうれしいなと思っております。

一つ問題点として、幼稚園のあり方について、区民の皆さんにもいろいろとご心配をかけているところですが、就学前の教育というのは先ほど言ったように勉強という形ではなくて、全体として、どういうふうに関わりを持ったらいいのか、ある程度明確にしていかなければいけないのではないかなと感じております。

どうしても就学前の子どもたちについて教育委員会の中で論議されることが意外に少なくなってしまうので、これをきっかけに、就学前の子どもたちに対しての教育にも、教育委員会がかかわりを持てるということはいいのではないかなと感じております。

今後の予定とかそういうようなことについても、これは問題ないのですけれども、子ども・子育て会議の主な調査審議事項の中には教育という言葉が全然盛り込まれてなくて、事業の実施状況評価ですとか、小規模保育の認可だとか、待機児童対策についての話をしているようなので、この辺りは修正を加えていただかないと、整合性がだんだんとれなくなってくるのではないかなと、今、見ていて思いました。

それと、教育長が一番先に言われたように、人選が一番重要だろうと思っております。その中に教育委員会がかかわれるのかどうかわからないのですけれども、会議の中に教育委員会も入っていただければなと思います。これは要望で、もし可能であればご検討いただければなと感じております。

田辺教育長

ありがとうございました。

渡邊委員のご指摘はもったもな事だと私も思うのです。保育園と幼稚園はもともと設置法とか成り立ちとかも違いますし、所管の官庁も違うということがあるではないですか。それで、子ども・子育て会議につきましては、ここにあるように、子ども・子育て支援法の中で設置をしているということで、教育委員会の、文部科学省系列の会議体ではないので、教育委員会がなかなか関与できないという、そういう背景があるのです。ただし、中野区では、子ども教育部と教育委員会とが一体的に運営をしていくということで、基本的に教育委員会もかかわっているという、位置付けは、していきたいと思っております。

そういう意味で言いますと、渡邊委員の2点目のご指摘の、今後、教育委員会が幼児教育に対してどうかかわっていくのかということが非常に重要なことだと私も思っています、この部会の中でそういうことも含めて議論してもらえれば、ありがたいなと思っています。

長くなって恐縮なのですが、今、記憶が曖昧なので申しわけないのですが、今は少なくとも0、1、2歳児の、保育園需要がすごく多いではないですか。それぞれの年代の50%に近いお子さんがもう保育園施設に行っているという状況ですから、それがどんどん上がってくると、半分以上、過半数のお子さんが保育園で就学前まで過ごすという形になりますので、保育園での幼児教育というのが本当に重要になってくるのだと思っています。

平成30年に幼稚園教育要領というのが変更になる予定なのですが、併せて保育所保育指針というの、ほぼ同じ内容で改正になりますので、そういうことも見通した上で、この部会の中で、今後の就学前教育でありますとか、幼児教育について検討してもらいたいと思っています。

それからあわせて、田中委員が最初におっしゃった、家庭への支援といいますか、家庭の中での幼児教育ということも議論しながら進めていきたいと思っています。

既に中野区では、就学前教育プログラムというのを前に作っているのですが、その中には家庭への支援みたいなものも入っているのですが、そういうことも幅広く検討していきたいと思っています。

渡邊委員

教育委員会が少しかかわって、部会のほうには少し影響力があるような形にしてもらいたい。

それで、家庭教育ということなのですが、実際、私自身が見ていて、小規模保育というのが少し心配になります。保育は小規模でやられているのですが、無理やり待機児童対策において小規模でやらざるを得なくなったところでは、小規模だと非常にアットホームだとか、小回りがきくだとか、それなりにいいこともありますけれども、全体的に大きくなると、家庭教育が、あまりたくさん求められなくなりますので、そういった意味では家庭教育を充実させるということは私も非常に重要な課題だなと感じておりますので、その辺りにも力を入れていただきたいと思っています。

田辺教育長

もう一つつけ加えて。

渡邊委員のご質問と関連があるのですけれども、今後、教育ビジョンの検討を進めていきますけれども、この部会での、論議については教育ビジョンのほうにも反映をさせていくということで、教育委員会も教育ビジョンにかかわっているのだという位置付けは作っていきたいと思っています。

よろしいですか。ほかにご質問ございますか。

それでは、本報告について終了いたします。

続いて、事務局報告の3番目、「平成28年度保育園と幼稚園と小学校との連絡協議会の開催報告について」、お願いします。

副参事（就学前教育連携担当）

平成28年度保育園と幼稚園と小学校との連絡協議会の開催報告をいたします。

こちらにつきましては、前回の教育委員会におきましても、委員の皆様から活動報告の中でご意見をいただいているものでございます。

まず1の目的でございます。「保育園と幼稚園と小学校において、相互に関係している子どもの問題や具体的事項などについて検討し、相互理解を深め、互いに連携を図る」というものでございます。

2、対象でございます。区内の保育園・幼稚園・区立小学校の教職員でございます。

3、内容でございます。内容につきましては、公開保育というものと、ブロック別連絡協議会というものの、2本立てになります。

(1)幼稚園公開保育でございます。公開の期間でございますけれども、平成28年6月1日から6月20日まで公開保育をいたしました。実施園でございますけれども、中野区内の区立・私立幼稚園、認定こども園の全22園でございます。③参加者でございます。合計で338名、昨年は137名でございましたので、201名の増になってございます。

(2)ブロック別連絡協議会の内容でございます。①テーマでございますけれども、「子どもたちのよりよい成長・発達と充実した教育活動をめざして」ということで、サブテーマといたしましては、小学校就学前の幼児教育及び小学校教育における家庭との連携の意味を探り、連続性のある教育・生活に向けた効果的な家庭との連携について考えるというものでございます。②開催の日時でございます。6月14日、それから6月21日、それぞれこの表にあるような形で開催をしてございます。

4の参加者でございます。(1)参加者数でございます。それぞれの団体から参加をいただ

いてございます。区立小学校では444人、幼稚園からは198人、保育園からは173人、教育委員会等から11人ということで、826人となっております。

裏面をごらんください。(2)参加者の感想ということで、抜粋した形で載せてございます。「事前の幼稚園見学は、活動内容を知る良い機会となり、今後交流を計画するきっかけとなった」というご感想ですとか、「活発な協議が行われ今後に繋がる連携の会となった」「このような一堂に集う連絡協議会は大事な機会である」「子どもの姿を保護者に伝える方法は様々だが、成長する子どもの姿をどのように保護者に伝えればよいのか、各学校でも話し合いを通して考え努力していることがわかった」、また「近年、教員を悩ませる保護者の要望や強い思いを深く理解しようとする、子育てへの自信の無さや、周りとの比較で悩む姿が浮かび上がってくるという意見に気付きを得た」というような感想をいただいているところでございます。

次に5でございませけれども、当日配布した資料を3点お付けしてございます。後ほどごらんいただきたいと思っております。

ご報告のほうは以上です。

田辺教育長

前回、お2人の委員からご報告いただいているので、前後して恐縮なのですが、改めてご報告させていただきました。これにつきましてご質問等ございますでしょうか。

田中委員

保幼小連絡協議会のほうは前回の委員会ではいろいろな話が出ましたが、公開保育の参加者が今年200人と非常に増えていますが、これは何か背景があるのでしょうか。

副参事（就学前教育連携担当）

今回につきましては、幼稚園さんが公開保育の対象ということで、保育園の皆さんの参加が多かったということになります。昨年は保育園が公開保育でしたので、幼稚園の方が多く参加された。今年は幼稚園ということで、保育園の保育士の方が増えたということと、また、新しく保育園が8園ほど増えていますから、そういうことで保育士がふえているのではないかと分析をしております。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにもございますか。

小林委員

これは前々回も報告しましたので繰り返しになるかもしれませんが、保幼小の取組とい

うのは、中野区は非常に先駆的に進めていて、中野区だけにいるとわからないかもしれませんが、これだけ手厚くやっているところというのは他の地区、そうそうないと思います。

実際に私も中野神明小学校の会場を見て、保幼小それぞれの先生方が非常に熱心に、お互いの状況を把握しようということで一生懸命やっていたらっしゃいました。それから、幼稚園と保育園がお互いに連携して、公開し合うというのも、地域によってはなかなか、難しいものですが、これもしっかりクリアできているということですので、今後もこれはぜひ充実させていければなと思っております。それからもちろん保育園・幼稚園には、小学校がかかわるわけですけれども、中学校もかかわれるような仕組みを考えていく必要があるのではないかなと思うのです。もちろん全面的に中学校がというのではなくて、中学校の先生が保育園・幼稚園の実情を知るということは非常に重要なことで、そういう仕組みも今後課題として入れていく必要があるのかなと思っております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。ほかにございますか。

田中委員

今の小林委員のご意見で思い出したのですけれども、中学校校区で幼稚園、小学校まで集まって地区懇談会というのがありましたよね、昔。今でもそれがあのでしょうか。それぞれ、中学校の校区の、私立の学校から幼稚園、小学校まで一堂に集まるような。テーマはその時々で違っていたのですけれども、何度か参加させていただいたことがあります。

田辺教育長

地域によって、集まっている会議体は今でもやっていますよね。

田中委員

今、小林委員が指摘されたように、中学校からそういう連携をとる場面というのはあるわけですね。

田辺教育長

ただ、子どもにかかわる民間の団体とか、地域の団体とかの方も入っていらっしゃいますので、教育ということに特化したものはないかもしれないです。

田中委員

わかりました。

田辺教育長

よろしいですか。

小林委員のご意見も、田中委員のご意見と同じことだと思imasuので、今後の課題にさせていただきますと思います。

ほかによろしいですか。それでは、そのほかに事務局から報告事項はございますか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

田辺教育長

続いて、事務局から、次回開催について報告願います。

副参事（子ども教育経営担当）

次回定例会は、7月29日午前10時から、区役所5階の教育委員会室にて開催する予定でございます。

以上でございます。

田辺教育長

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして、教育委員会第18回定例会を閉じます。

どうもありがとうございました。

午前10時50分閉会